

# 日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No.23

■平成27年6月17日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

## CONTENS

- ・平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告
- ・平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第50回大会案内
- ・第5回学会賞 選考審査委員会報告
- ・『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会報告及び次回勉強会のご案内
- ・『日本仏教社会福祉学会年報』投稿論文の募集
- ・事務局 編集後記

### 日本仏教社会福祉学会

発行日：平成27年6月17日

発行：日本仏教社会福祉学会  
事務局

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保

1150-1

淑徳大学埼玉キャンパス

社会福祉実習室内

TEL：049-274-1511（代）

FAX：049-274-1521

## 平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告

日時：平成27年4月25日（土）15：00～17：55  
場所：淑徳大学 池袋サテライトキャンパス

**出席 代表理事** 長谷川匡俊  
**個人理事** 石川到寛 田宮仁 宮城洋一郎  
 藤森雄介 谷山洋三 小笠原慶彰  
 村井龍治 池上要靖  
**団体理事** 渋谷哲 長上深雪 三友量順  
 小島恵昭 落合崇志  
**監事** 梅原基雄 山口幸照  
**名誉会員** 中垣昌美

事務局 藤田則貴 渡邊義昭

欠席

**個人理事** 清水海隆 田代俊孝  
 徳岡博巳  
**団体理事** 林俊光

### 議事報告

事務局 事務局長より開会の宣言

#### 1 定足数の確認

出席の確認 理事会規定に基づき本理事会は成立している。

### 代表理事

名誉会員の中垣先生のご出席もいただき多数のご出席をいただいている。本秋での第50回大会を開催に向けての取り組みをお願いしたい。

事務局 議長の選出は理事会規定に基づき、代表理事にお願いしたい。

### 2 議案

#### 第1号議案 会員の異動について

議長 事務局より第1号議案について。

##### (1) 入会会員の承認について

事務局報告により、次の①新入会員1名、②退会会員5名について審査の結果、承認された。

##### ①入会会員の承認（順不同）

個人会員入会

1. 須田めぐみ

##### ②退会会員の承認（順不同）

1. 三好一成 2. 勝崎裕彦 3. 池田久代

4. 瀬尾俊治 5. 尾畑文正

したがって、平成27年4月25日現在、個人会員は、195名、団体会員24団体、計219会員となった。

**会費未納会員について**

事務局 規定では3年未納の場合、退会勧告となっているが、事務局として働きかけるためもう少し時間をいただきたい。

議長 会員の減少もみられるが、事務局でももう少し働きかけをして対応していきたい。

理事 承認



**第2号議案 平成26年度収支決算（案）について**

事務局 平成26年度収支決算書について説明をする。前年度繰り越しは20万円であったが、本年度は1250573円が繰り越しとなっている。

個人会員では会員数の減少で減収である。団体会員の部では、過年度分の入金があった。

雑収入では、寄付として同朋大学の大会運営費（40万円分の大会助成費であったが30万円のみ使用した）の余剰金として10万円分の寄付をいただいた。

支出の部では、年報が44・45号の合併号としたため471500円の支出増となった。ホームページの作成維持に関しては経費がかからなかったが、次年度に向けて委託先の変更を考えている。以上、収支決算上上年度繰越金1250573円を繰り越しとする。

アジア仏教社会福祉学会学術交流基金487090円については淑徳大学大会事務局に移行した。

監事 適正に処理されていると確認した。

理事 承認

**第3号議案 第5回学会賞について**

**村井担当理事より**

前回の学会賞は該当者がいなかったため、6年ぶりの審査となる。審査要綱は定められているが、審査要綱を再度精査する必要がある

のではという意見が出た。審査委員長は研究担当理事が担い、代表理事の委嘱を受ける形を考えている。秋の大会に向けて学会賞を選出しなければならないため、今回の理事会で改めて審査の手順やプロセスを明確化することで提案させていただきたい。

**石川理事**

3年に一度の学会賞で、審査のプロセスを「見える化」することが必要と委員会で話し合われた。

議長 募集・審査・決定の流れができていますが、研究担当理事からの説明があった通り未整備の点もあり、審査委員会の構成やプロセスを明確化したうえで審査に移りたいと考えている。本理事会で審査やプロセスの方向性をご承認いただき、9月の理事会で改めてご承認いただければと考えている。そのうえで秋の大会で表彰式を行いたい。

理事会 承認

**第4号議案 平成27年度第50回大会（淑徳大学）について**

**田宮理事**

第50回大会では、淑徳大学創立50周年記念の学術フォーラムを開催したい。基調講演では、石川先生を大正大学名誉教授としてお願いしている。

**渋谷理事**

大会テーマ日程では、「アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割—現状と未来に向けて—」、10月9日から11日にかけて実施。理事会については10月9日（金）の開催になる。

大会初日は、国際学術フォーラムを開催する。2日目は第50回大会として、基調講演・シンポジウムを開催。3日目は研究発表として開催する。会場の連絡バスの経費として昨年度より参加費を上げさせていただいた。

一方、学部大学院生の参加費は安く抑えた。研究発表の申し込みは2段階としたい。原稿の様式は日本社会福祉学会の様式を基にしている。

**石川理事**

基調講演を担当するに当たり、シンポジウムや、国際学術フォーラムを踏まえどのように演題を方向づけたらよいか理事会でのご意見をいただきたい。

**田宮理事**

シンポジウムや学術フォーラムでの方向性は出ているが演者とのすり合わせもしていきたい。

**議長**

ソーシャルワークに関してアジアの新しい動きや可能性について学会として発信していきたい。

**三友理事**

海外からの参加者に食事時間や形態など礼を逸さないように執り行ってもらいたい。

中垣名誉会員

前回のシンポジウムから考えると、参加する国の参加者のステイタスが明確になるような選考をしていただきたい。主催者としてどのように考えているのか。

**田宮理事**

各国の大学の仏教やソーシャルワークの第一人者をお呼びする予定。現地を知っている人で推薦できる人がいればこの理事会で挙げてでもいいのでは。より適切な人をシンポジストで選んでいただきたい。

**谷山理事**

バングラディシュでの研究者には知り合いもいるが、ソーシャルワークとのつながりでは弱い。12時を過ぎると昼食を食べない方もいるので時間の配慮も必要では。

**議長**

ベトナム・スリランカでは淑徳大学から教員などが訪問したり、現地の教員を招聘したりと交流を実施している中での開催となる。コーディネーターやコメンテーター、基調講演などより現地との連絡を密にとって進めている。

理事会 承認

**第5号議案 50周年記念事業について  
(平成28年度第51回大会(立正大学)を含む)**

**事務局**

担当の清水理事が欠席のため、村井理事にお願いしたい。

**村井理事** 「日本仏教社会福祉学会50周年記念誌(案)」では、本編及び資料編での発行を企画している。年報の増刷版(特集号)として考えている。本理事会で了承を得た後、平成28年9月の発行を予定(学会大会)してスケジュールを立てている。

**宮城理事**

学会のあゆみを三つの時期に分けてまとめたい。秋の大会で研究発表を考えている。

**事務局**

清水理事とは4月1日に打ち合わせを行っている。体裁については予算の括りもあるので、年報の増刊号として発行を考えているが媒体

については(PDF化、CD化)など検討中である。

**村井理事**

大会を引き受けてきた大学の中には、当時の教員が退任したりなど団体会員校の中でもどのように依頼や記載するのか、ご意見をいただきたい。

**石川理事**

年報の特別号として発行するのか。発刊にあたり、予算をどのように確保するのか。

**事務局**

配布の方法を含めPDF化すれば作業の手間は増すが、予算は軽減できると考えている。原資としては学会の基金など予算の枠はある。今後、おはかりいただきたい。

**池上理事**

文献目録ではCSV形式(エクセル)で作成を考えている。データ化することで直近のデータを反映できる。学会のHP上での公開も検討している。明治期以降、社会事業としての展開からスタートとして2016年までの140年ほどの期間となる。海外の文献については範囲が広すぎて現状では時間がかかる。

**議長**

この事業における文献目録は非常に重要であり、ご意見があれば池上理事までお願いしたい。この理事会終了後に、原稿の依頼となっているためしっかりと準備をお願いしたい。

理事会 承認

**第6号議案 年報投稿倫理規定について**

**小笠原理事**

編集規定では、大きな変更はない。現状に合わせて見直した。機関紙編集委員会規定では編集委員会と査読委員会がある。編集規定を設けて投稿規定を定めたらどうかと考えている。

**落合理事**

委員の役割や規定などを明確にすべきでは。

**落合理事**

倫理指針のなかで学会内に倫理委員会を設けるべきなのか。

**議長**

学会として倫理委員会を設置することのご意見を伺いたい。今後の課題として研究倫理指針については承認いただき、今後会員に周知図りたい。

**中垣名誉会員**

査読者に対する著者の反論をどのように対応するのか、様々なケースを考えるべきでは。

「反論」に対する応答を「義務化」するのか、「こともできる」と表現を考えてみてはどうか。

#### 議長

中垣名誉会員から、日本社会福祉学会では反論に対する意見の対応で難しいケースもある。こうした想定に対してご意見があれば。小笠原理事 書評について反論があった場合、しっかりと対応していくことが必要。編集委員会会で判断する。

理事会 承認

#### 事務局

細部の整合性が必要なため、大枠を了承とし、秋の理事会までに事務局と担当理事で協議し、秋の理事会で最後ご提案したい。

### 第7号議案 ホームページの運用委託先変更について

#### 事務局

ホームページの運用については、これまで学会連合のサーバーでホームページを公開していた。学会連合の委託業者が変更になったため、再度学会連合が委託業者を変更することになった。新しい業者との打ち合わせを行っている。新年度は年2回の更新と維持費が予算15000円であるが30000円になる。事務局として、新規のホームページを立ち上げるコストを考えると、同じ業者に委託することにした。

#### 石川理事

学会連合と加盟団体のホームページの運用について不明確であった。他の学会も同様にあるのでは。

#### 事務局

現在は運用できる状態である。この理事会で承認を得れば新たに契約したい。

#### 石川理事

学会連合の機能や意義が不明確になっているのではと危惧している。加入することの意味があるのか検討が必要では。

理事会 承認

### 第8号議案 学会主催の研究会開催にかかわる費用（講師料等）について

#### 長上理事

関西で「仏教社会福祉入門」研究会を開催した。こうした研究会を通して研究者の資質の向上を考えている。予算的な裏付けが必要

と考えていり、おはかり願いたい。

#### 宮城理事

若手の研究者を育てるためにも、予算を付けることで盛り上げていくことが必要ではと考えている。

#### 議長

東西それぞれ研究会としてそれぞれ5万円（計10万円）をもとに研究会の活性化に期待している。今後の研究者の広がりを願いおはかりいただきたい。使い勝手など予算の使い方など検討していただきたい。

#### 石川理事

関東では、予算だけでなく研究会の位置づけをどのように継続していくかを明確にすべきでは。実績をもとに提案があるので進めていただければと考えている。事務局と相談の上進めていただきたい。

#### 議長

試行的な要素もあり、予算に位置付けられてはいないが今後に向け実施していったらどうか。将来につなげる研究会としてもらいたい。

理事会 承認

事務局 予定を挙げていただき、事務局に報告いただきたい。次年度に向けては、予算の組み立てを再検討して予算の適用の変更も考えている。次年度予算案でご検討いただきたい。

## 3 報告事項

### 議長 ① 次号年報編集について (編集委員の承認の件等を含む)

#### 池上理事

査読をおこなっている。同朋大学での記念講演・シンポジウムについては現在大会校とやり取りしている。また、査読委員の臨時承認を願いたい。佐賀枝会員、長崎会員、また2015年度から栗田会員を新規でお願いした。

### 議長② 仏教社会福祉関連研究事業について 石川理事

昨年度会員にアンケート調査を実施した。「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」については、秋の大会で発表する予定。

### 議長③ 大震災対応プロジェクトについて 藤森理事

公開に向けて、現在調整中であるが、回答者（団体・寺院）には冊子を送付して再度確



認を取っている。6月上旬には全日本仏教会のホームページで公開し、学会ともリンクを張っていく。今後、継続的に研究をすすめ、データを基にした研究会を提案している。

**議長④『仏教社会福祉学研究史（仮）』編集刊行委員会の準備について**

谷山理事

目次案を提示させていただいた。

事務局

昨年度の学会で、50周年事業の次のテーマとして意見が挙がった。会員に研究テーマや関心事項など今後につなげていきたい。

議長

日本キリスト教社会福祉学会が10年以上の時間をかけてキリスト教社会福祉の変遷をまとめている。仏教社会福祉学会では、視点を変えて後世に残るものを作っていきたい。今日の段階ではその進めについてご確認いただいた。

議長

その他なければ、以上で理事会を終了した。長時間ありがとうございました。

開会

事務局長より開会を宣言。

(文責：事務局)

**平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第50回大会案内**

日本仏教社会福祉学会 第50回大会  
淑徳大学創立50周年記念  
国際学術フォーラム

**ご案内 テーマ**

アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割 -現状と未来に向けて-  
第50回大会 実行委員会  
委員長 淑徳大学 田宮 仁

アジア地域においてソーシャルワークの代替機能として「仏教」の果たしてきた役割や可能性を探ることを目的としており、ベトナム・スリランカ・タイから発表者を招聘する予定であります。

**大会日時**

2015 (平成27) 年10月9日 (金) ~11日 (日)  
9日 (金) 淑徳大学創立50周年記念  
国際学術フォーラム

10日 (土) ~11日 (日)  
日本仏教社会福祉学会 第50回大会  
大会会場  
淑徳大学 千葉キャンパス  
[千葉市中央区大巖寺町200]

**10月9日 (金) 淑徳大学創立50周年記念 国際学術フォーラム [参加費無料]**

10:00~12:00  
日本仏教社会福祉学会 理事会  
12:00~ 受付  
13:00~13:10 開会式  
13:10~17:00 国際学術フォーラム  
「アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割-現状を中心に-」

**10月10日 (土) 日本仏教社会福祉学会 第50回大会**

9:30~ 受付  
10:00~10:30 物故者追弔法要  
10:45~10:50 開会式  
10:50~11:50 基調講演  
13:00~16:50 大会シンポジウム  
「アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割-未来に向けて-」  
17:00~18:00 学会 総会  
18:10~16:45 懇親会

■本大会では宿泊施設の手配は行いません。参加者は各自で宿泊予約してください。

**大会事務局**

〒260-8701  
千葉市中央区大巖寺町200  
淑徳大学 渋谷研究室  
日本仏教社会福祉学会大会実行委員会事務局  
TEL: 043-265-7331(301) FAX: 043-265-8310  
メール shibuya@soc.shukutoku.ac.jp  
担当: 渋谷 哲

**日本仏教社会福祉学会第5回学会賞選考 審査委員会 報告**

平成27年4月25日 (土) 14時00分~14時50分  
会場 淑徳大学池袋キャンパス 応接室

出席者 (敬称略)  
・長谷川匡俊 (代表理事) ・石川到覚 (審

査委員)・村井龍治(研究担当理事)  
・事務局 渡邊義昭(オブザーバー)

**事務局**

学会賞要綱の審査の手続きに関して、「研究担当理事を含む数名で構成する審査委員会を置く」との規定により本審査委員会を開催する。今回は3篇の書籍が推薦されている。

**石川委員**

審査委員会の審議に先立ち、「審査・決定」のプロセスの明確化について再確認が必要ではないか。

**長谷川代表理事**

現在、社会事業史学会で選考委員をしているが、その選考は厳密に行われている。選考規定に基づいて、委員には選考の該当書籍を配布し所見を付け書面でのやり取りをしている。複数あった場合は、順位を付けて審査している。委員会では多数決と理由を示し諮っている。委員会での議論を踏まえ、十分に審議することが必要である。そこで、審議のプロセスを明確化することが今後必要である。また、これまでは研究担当理事と2名ほどの委員で選考を行ってきたが、もう少し広い視点で代表理事以外の理事で構成すべきではないかと考えている。誰が見ても分かる仕組み作りが大切である。

**石川理事**

内部だけで決めるのではなく、外部から見られているという仕組みが必要。関東・関西の研究担当理事が委員長、副委員長を担当することが望ましい。委員には学会誌の編集委員長も入ってもらったらどうか。事業史学会のプロセスを参考にしたらどうか。

**村井担当理事**

今回は、現行のシステムとして代表理事を委員長にして審査を進めていくことが適切。

**長谷川代表理事**

今回は、この規定での選考ではあるが、審査の規定を含め今回の理事会ではなく次の理事会で報告することはいかがか。

今日の段階で枠組みを考え、理事会に方針に従った規定を作成することなど事後承認させていただくことを諮り、次の理事会で発表することはいかがか。

**村井担当理事**

これまでの話をまとめると。審査のプロセスを事業史学会の流れを基に考えていくことで良いか。

具体的には、①選考委員に、該当書籍を送付、②査読、③委員会に諮る(委員からの結果を

委員長が整理、審査報告書を作成)(審査委員は研究担当理事が指名し、理事会で承認を得る)、④審査結果を理事会で承認、この一連の流れで本日の理事会に提案する。委員長が委員を選出指名し、代表理事が承認委嘱する。したがって、今回の理事会で提案をし、秋の理事会で委員会の結果を報告し決定の承認を受ける手順を進めていきたい。

今回推薦されている3篇の書籍に関しては、この手順で選考を進めていく。今後の課題として、推薦書の書式の見直しを考えていく。以上の提案でよろしいか。

**長谷川代表理事・石川委員**

村井担当理事の提案で進めていく。

以上  
(文責：事務局)

尚、第5回学会賞の審査対象となっている書籍は次の3点です。(順不同)

**1 書籍名**

「浄土宗の教えと福祉実践」  
著者編者  
浄土宗総合研究所仏教福祉研究会／編  
出版社名  
ノンブル社  
発行年月  
2012年5月 261P

**2 書籍名**

「宗教と福祉の歴史研究—古代・中世と近現代」  
著者  
宮城 洋一郎会員  
出版社名  
法宝館  
発行年月  
2013年5月

**3 書籍名**

『仏教福祉実践の轍(わだち)  
近・現代、そして未来への諸相』  
著者  
藤森雄介会員  
発行  
長谷川仏教文化研究所刊  
発行年月  
2014年3月



## 『仏教社会福祉入門』を活用した 勉強会報告及び次回勉強会のご案内

平成26年度第2回理事会で挙げた『仏教社会福祉入門』を活用したの勉強会について、関東地区、関西地区の報告。

### 1 関西第1回研究会

日時 2015年2月23日（月）14時～17時

場所 龍谷大学響都ホール会議室

参加者 頼尊 中垣 宮城 小笠原 長崎

山本 小出 村上 長上

報告者 頼尊恒信氏

(NPO法人 CILだんない 事務局長)

テーマ 「障害者福祉の世界的動向と仏教社会福祉の現状」

『仏教社会福祉入門』についての関西地域での第1回研究会を開催したところ、9名の参加があった。

報告者の頼尊恒信氏は、この3月に学位論文の『真宗学と障害学—障害と自立をとらえる新たな視座のために』（生活書院）の刊行を目指している新進の研究者であり、NPO法人だんないの事務局長である。これまで社会福祉と仏教の関係性について数々の社会的な発言をされている方である。

頼尊氏は、まず、この『入門書』が多くの書き手によって執筆されていることから、理論的に一貫した体系書にはなっていないことを指摘した上で、それぞれの章の内容は執筆者に全責任を負わせるものではなく、世に送り出したという点での本書における学会や出版社の責任があると述べられた。これは、出版したことで、これまで以上に仏教社会福祉論の理論構築に向けてさらに学会が努力する必要があり、時代状況を認識しつつ適切な加筆修正をおこなう責任もあることを述べられたと理解できる重要な指摘である。

また、頼尊氏は、仏教社会福祉の三要素として、①伝統的教學のメインストリームであること（認識の重要性）、②時代把握が正当であること（歴史性）、③現代社会福祉思想に対して異論を唱えるならば道理にかなっているべきであること（思想性）を挙げられた（（ ）内は長上）。この指摘をもとに、原理論も含めて読み返し、さらに深める必要がある。

報告後の討論の中では、本書を世に問うこ

とによって、あらためて「仏教福祉」と「仏教社会福祉」の理論的整理、あるいは歴史的に見れば、仏教社会福祉として社会問題に向き合い、その解決を図っていくために、対象を見定め、評価の根拠を問うていく、一貫した方法論が必要であることを強く認識させられた。特に、頼尊氏から提起された「中村久子」、「糸賀一雄」に対する評価への疑義をめぐる議論では、仏教社会福祉の認識を深めるところとなった。このような点から、『入門』の内容を理解するだけでなく、こうした理論的な批判的検討こそが仏教社会福祉理論の構築と実践をすすめる原動力になると確信している。（文責 長上）

### 2 関東第1回研究会

日時 2014年12月5日（金）

場所 大正大学7号館7階774教室

参加者 大正大学学部生（1年生）3人 院生2人 聴講生（CSW）1人 菊池（同学会会員・報告者）

講師 石川到覚先生

『仏教社会福祉入門』について、大正大学石川到覚教授を講師に勉強会を行った。参加者は、大正大学学部生が3名、院生が2名、聴講生1名、同学会会員1名（報告者）で行われた。いずれも、仏教社会福祉に関心のある学生が参加した。

まずは、石川先生に、仏教ソーシャルワークの可能性（同書p. 101～第3章-6『仏教ソーシャルワークの可能性』）についてご講義いただいた。また、ソーシャルワークおよび、仏教社会福祉について勉強を始めたばかりの参加者もいるということもあり、水谷幸正先生と孝橋正一先生の論争や、「ソーシャルワークとは何か」についてもご講義いただいた。また、“ソーシャルワーカーは、仏教をどうみるか”について、活発な議論をかわしながらご講義いただいた。例えば、脳死などについて、ワーカーが何らかの価値判断を行うときに、何を軸に考えていくかということについてお話いただいた。

そのさいに、キーワードになるのが、生老病死をあつかう仏教である。仏教は、生老病死をあつかうので、ワーカーの価値判断の軸になることができる。報告者が、もっとも心に残ったことは、ワーカーが自分の仕事を行うときに、何のためにやっているのだろうか

ゆらぐときに、ワーカーにとって“大切なもの”の引き出しはどこからと問われたときに、仏教がその役割を果たすことができるということである。

最後に、仏教ソーシャルワークは、ソーシャルワークの「価値」への貢献であり、それが、ソーシャルワークにおける仏教の役割であるというご指摘をいただき勉強会を終了した。  
(文責 菊池)

### 3. 次回勉強会のご案内

仏教社会福祉学会の関東研究会について大正大学大学院仏教福祉研究のコマを利用した開催を、

6月23日と7月21日同じ火曜日の18時30分から21時まで大正大学7号館7階775教室で実施することになりました。

問い合わせ 学会事務局まで

### 『日本仏教社会福祉学会年報』 投稿論文の募集

#### ※投稿規定

- (1) 本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。
- (2) 投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・書評・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。
- (3) 本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。
- (4) 投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。
- (5) 投稿に際しては、印刷原稿3部を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。
- (6) 執筆上の細目は原則、次の通りとする。
  - ① 論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。
  - ② 本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。
  - ③ 長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。
  - ④ 引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名また巻・号、発行所、発行年、ページの順とする。

⑤ 図表については、掲載順に番号と題名を付し、掲載箇所に添付する。

(7) 執筆者が抜刷を希望する場合は、実費とする。ただし、「基調講演」、「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。

※投稿希望の会員は、事務局までご一報ください。宜しくお願い致します。

### 事務局 編集後記

第50回学術大会に向けて準備が進んています。平成27年度は節目の年であります。

竹は「節から芽が出る」ことから、節目節目に難しい課題や苦難がある一方、新しい動きや方向性の芽がでると言われています。

事務局としても、学会事務の遂行だけでなく、新規会員の増加を目指した取り組みや、経費の見直しをはかりながら、より効率的な事務局体制を構築していきたいと考えております。

会員の皆様の、ご意見やご提案をいただければと考えております。

### 日本仏教社会福祉学会事務局

事務局長 藤森雄介  
事務局員 渡邊義昭  
藤田則貴  
宗像実咲

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1

TEL : 049-274-1511 (代表)

FAX : 049-274-1521

E-Mail : fujita@ccb.shukutoku.ac.jp

淑徳大学 埼玉キャンパス

社会福祉実習指導室 担当：藤田

<hr/>	<hr/>
<hr/>	<hr/>
<hr/>	